

2019年3月25日

各位

会社名 株式会社西武ホールディングス
代表者 取締役社長 後藤 高志
(コード番号：9024 東証一部)
問合せ先 広報部長 川上 清人
(TEL.04-2926-2645)

日本初の線路を跨ぐ超高層ビル「ダイヤゲート池袋」の竣工式を実施

当社の連結子会社である西武鉄道株式会社（本社：埼玉県所沢市、取締役社長：若林 久）が保有し、株式会社西武プロパティーズ（本社：埼玉県所沢市、取締役社長：上野 彰久）が開発を推進する大規模オフィスビル「ダイヤゲート池袋」では、本日、竣工式を執りおこないました。また本日、当ビルの特徴である線路上空のデッキの供用を開始いたしました。



<竣工式にて挨拶する後藤高志>



<竣工式にてテープカットする様子>※1

■株式会社西武ホールディングス 代表取締役社長 後藤 高志のコメント

ダイヤゲート池袋には、池袋の今後の発展へ向け、ランドマークとしてその一翼を担う、との想いを込めております。

また、当社としては、3社が当ビルに本社移転することにより、西武鉄道本社の所沢との2大拠点化による企業価値の一層の向上に取り組んでまいります。



<ダイヤゲート池袋>

<ダイヤゲート池袋、本社移転について>

1. アセット戦略上の意味

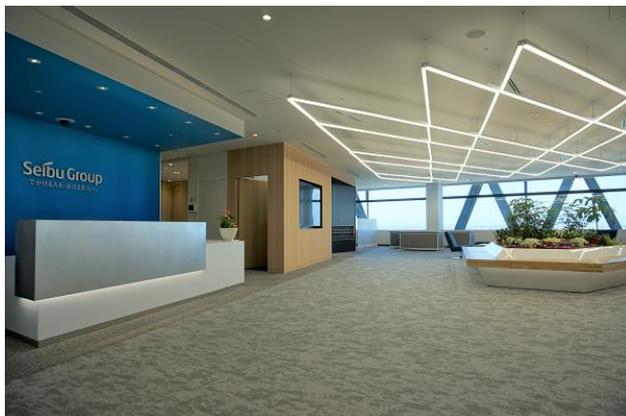
首都圏有数かつ西武鉄道最大のターミナル駅であり、沿線の最重要エリアでもある池袋は、様々な開発が計画され、今後発展が期待されるエリアです。将来的に、「ダイヤゲート池袋」の2階に整備したデッキが、豊島区が構想中の東西連絡通路と接続された際には、回遊性・利便性の向上も期待できます。「ダイヤゲート池袋」は、池袋エリア最大級にして（基準階貸室面積 約2,100㎡は池袋エリア最大）、日本初となる“線路を跨ぐ超高層のオフィスビル”であり、線路上空や隣接社有地を活用し、保有する土地のポテンシャルを最大化したという点で、当社グループのアセット戦略上、非常に大きな意味を持ちます。

2. 効果的な本社機能

「ダイヤゲート池袋」には外部テナントのほか、当社グループ本社部分については、当社をはじめ、プリンスホテル、西武プロパティーズの3社が入居します。当社グループでは、都市交通・沿線事業、ホテル・レジャー事業、不動産事業を中心に、様々な事業を展開しており、グループ内外との連携強化が、企業価値極大化に向けたカギの一つとなります。ホテル・レジャー事業を担うプリンスホテル、不動産事業を担う西武プロパティーズ、及び当社は、本社機能を池袋に移転・集約することで、事業環境の変化を敏感に捉え、より機動的に事業を展開していきます。一方で、都市交通・沿線事業を担う西武鉄道など、西武線沿線に密着した事業を展開する会社は、池袋線と新宿線が交差する所沢に本社機能を集約し、より安定した事業基盤を築くことを目指します。当社グループは、「所沢と池袋」の連携強化により、持続的かつ強い成長に向けて、更なる発展を目指します。

3. 働き方改革・生産性向上の追求

社員一人ひとりの多様性を尊重し、スピード感を持ってイノベーションにチャレンジしやすい環境を生み出すため、「空間」「制度」「ICT」を軸にオフィス環境を整えました。制度・ICTでは、2017年より導入している「スライド勤務制度」の更なる促進に加え、「テレワーク制度」を導入することで、より柔軟で多様な働き方を実現します。空間では、眺望が良く、フロアのどこからでもアクセスしやすい角地に、業務に集中する場として“コーナーハブ”を、人の往来の多いエリアには、交流の場として“センターハブ”を設置するなど、工夫を凝らしています。また、社員食堂では、エリア毎の機能に合わせて、ホテル、鉄道、ライオンズなどグループ各社の事業にちなんだ装飾を施すことで、グループを体感できる空間を演出しました。



<西武グループ受付エリア>



<コートエリア (イベント利用も可能な小上がりのデッキ付)>



<センターハブ>



<コーナーハブ>

<発表資料>

2012年7月25日発表	池袋旧本社ビル建替え計画における基本方針について
2014年6月11日発表	池袋旧本社ビル建替え計画における基本方針の変更について
2015年3月25日発表	「池袋旧本社ビル建替え計画」の事業決定について
※2017年1月16日更新	
2017年1月16日発表	当社の本社移転について
※2018年4月9日更新	
2018年4月9日発表	(仮称)西武鉄道池袋ビルの上棟式を実施
2018年7月31日発表	池袋の新たなランドマーク“線路の上を跨ぐビル”建物名称を「ダイヤゲート池袋」に決定！！
2019年1月29日発表	豊島区と「帰宅困難者対策の連携協力に関する協定」を締結
2019年2月28日発表	線路の上を跨ぐオフィスビル「ダイヤゲート池袋」が竣工
2019年3月25日発表	日本初の線路を跨ぐ超高層ビル「ダイヤゲート池袋」の竣工式を実施

<取材公開>

2015年6月16日	「池袋旧本社ビル建替え計画」起工式
2018年4月9日	「池袋旧本社ビル建替え計画」上棟式
2019年3月25日	「ダイヤゲート池袋」竣工式・内覧会

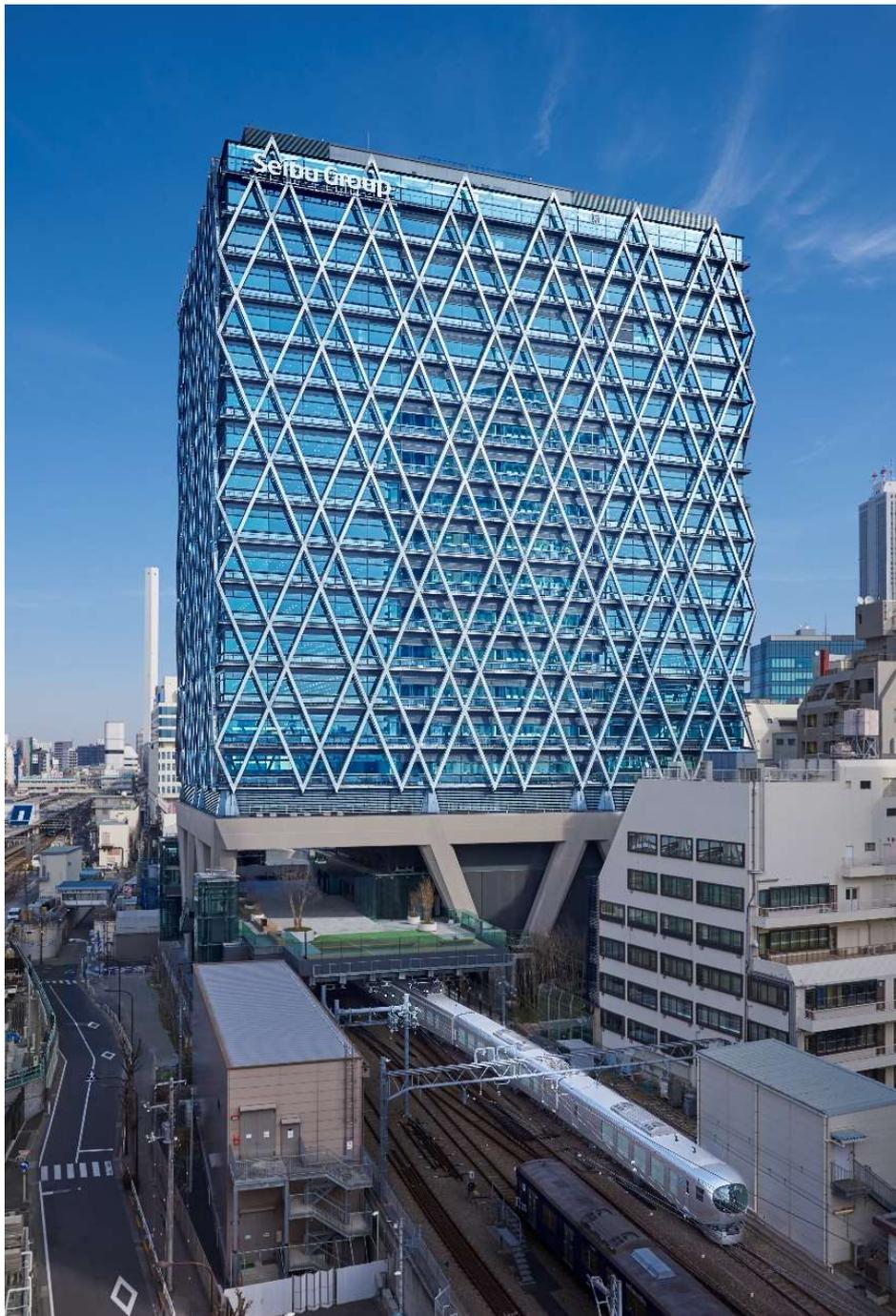
※1 竣工式登壇者（写真左より）

株式会社西武プロパティーズ 代表取締役社長 上野 彰久
南池袋一丁目町会 会長 渡邊 隆男 様
日本大学理工学部土木工学科 教授 岸井 隆幸 様
株式会社西武ホールディングス 代表取締役社長 後藤 高志
豊島区 副区長 齊藤 雅人 様
豊島区議会 議長 磯 一昭 様
西武鉄道株式会社 代表取締役社長 若林 久

以 上

ダイヤゲート池袋

<FACT SHEET>



※ 2019年3月25日 現在

株式会社西武ホールディングス
株式会社西武プロパティーズ

目次

1. 開発計画について

(1) 開発経緯	2
(2) 事業概要	2
(3) 施設概要	3

2. 「ダイヤゲート池袋」について

(1) 施設紹介	
①建物名称	4
②設計コンセプト	4
③フロア構成	5
【コラム】西武鉄道池袋旧本社ビル	
(2) 防災/BCP	6
(3) 建築プロジェクト/建物建設遷移（定点写真）	7
(4) 歩行者ネットワークの向上	8
【コラム】池袋の東西をつなぐ“ビックリガード”	

3. 再開発が進む池袋

【コラム】西武鉄道「100周年事業」池袋駅リニューアル

4. 西武グループについて

(1) 事業紹介	10
(2) グループビジョン	11
(3) 会社概要	12

～本資料のご使用に際してのお願い～

※ 本資料は事業情報及び企業情報とともに、オープンデータや文献・書籍、ウェブサイトなど2次情報を収集した参考資料集です。

1. 開発計画について

(1) 開発経緯

～保有不動産の最大有効活用～

「西武グループ長期戦略」に掲げておりますように、不動産事業を「企業価値向上の鍵」と位置付け、グループ保有不動産の有効活用などにより、潜在的な収益力を顕在化させることで、グループの企業価値向上を目指しております。

本事業についても、首都圏有数かつ西武鉄道最大のターミナル駅であり、同社沿線の最重要エリアでもある池袋において旧本社ビルを賃貸オフィスビルに建替えることで、池袋エリアの発展に寄与するとともに、不動産事業の収益力の向上が推進されます。また、当社グループが持続的かつ力強い成長を実現するために、当ビルへ西武ホールディングス、プリンスホテル、西武プロパティーズの本社が移転します。

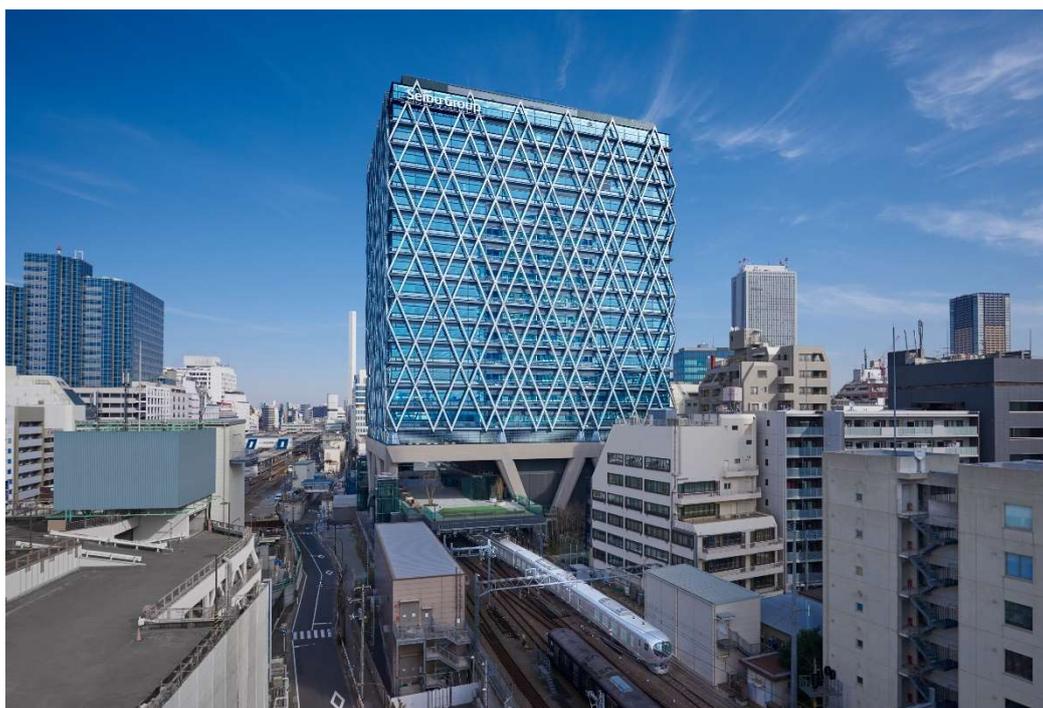
(2) 事業概要

～日本初、線路を跨ぐ超高層ビル！池袋エリア最大の基準階貸室面積約2,100㎡を供給～

本事業では池袋旧本社ビル敷地に加え、西武鉄道池袋線の線路上空と同社所有地の線路西側の用地を活用し、1・2階に商業3店舗、4階から最上階となる18階の計15フロアをオフィス用途で構成する延床面積約5万㎡のオフィスビルを建設し、2019年4月に開業いたします。オフィスフロアの基準階貸室面積は池袋エリア最大の約2,100㎡（約640坪）となり、また総貸室面積では池袋エリアでトップクラスとなります。

さらに、免震構造の採用やBCP面への配慮をおこなうなど防災性の向上をはかるほか、防災備蓄倉庫の設置や帰宅困難者への対応として豊島区と連携するなど、地域への貢献にも努めてまいります。

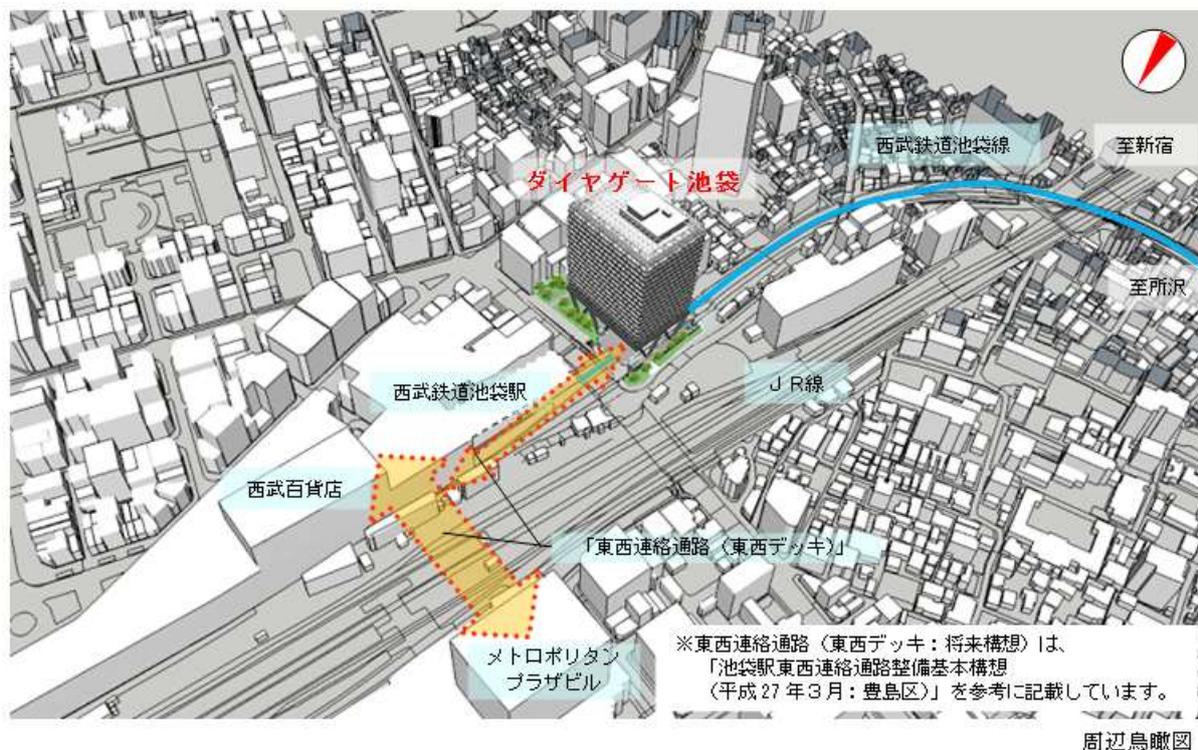
また、豊島区が構想中の池袋駅東西連絡通路（東西デッキ）と本ビル内のデッキが将来接続された際には、池袋駅から南池袋方面への歩行者ネットワークが強化され、地域の賑わいを創出する役割も期待されます。池袋エリアにおいて新たなランドマークとなるオフィスビルが誕生することで、当該エリアのさらなる活性化の一翼を担ってまいります。



1. 開発計画について

(3) 施設概要

所在地	東京都豊島区南池袋一丁目16番15号
敷地面積	約5,530㎡
延床面積	約49,661㎡
用途	事務所、店舗、駐車場
階数	地下2階・地上20階建 ※建築基準法上
高さ	99.98 m
構造	鉄骨造（一部鉄筋コンクリート造、鉄骨鉄筋コンクリート造）
設計・監理	株式会社日建設計
施工	大林・西武 建設工事共同企業体
総事業費	約380億円
予定工期	2015年7月 新築工事着工 2019年2月 新築工事竣工
開業	2019年4月



2. ダイヤゲート池袋について

(1) 施設紹介

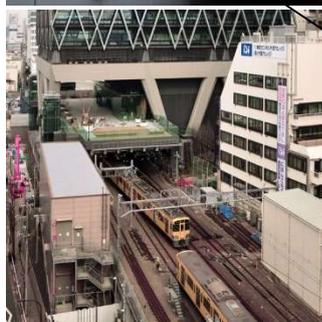
① 建物名称

ダイヤゲート池袋

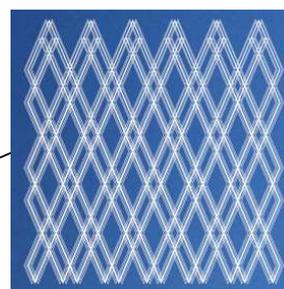
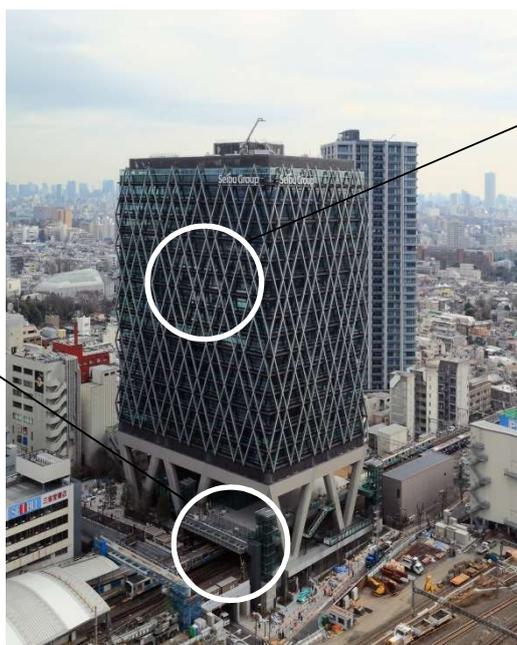
(英文名 : DaiyaGate Ikebukuro)

池袋の新たなランドマークに相応しい建物名称として、鉄道の運行図表であるダイヤグラムをイメージさせる特徴的な外観や、タワーボディの外殻を菱型に包む鉄骨ブレースが陽光を受ける輝きは“ダイヤ”を、当ビル最大の特徴である線路を跨いで建ち、電車が建物の下をくぐり抜ける様子を“ゲート”で表現しています。

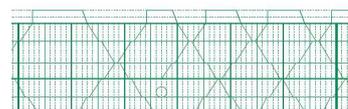
西武鉄道をご利用頂くお客さまを池袋に迎え入れ、送り出すゲートとしてあり続け、また、西武グループの拓かれた未来への入り口となるよう想いを込めています。



電車がくぐり抜ける様子



6 30 7



6 30 7

↑ <ダイヤグラム>
列車の運行計画、スケジュールを図表に表したものを。時間を横軸、距離を縦軸にとり、停車場名を縦軸上に配置するグラフ状の形態。

② 設計コンセプト [設計者 (日建設計) コメント]

西武鉄道の代名詞であり起終点である池袋駅から伸びる線路を跨ぐように建つこのビルディングは、360度どこからもよく見えます。私たち設計チームは「この地に、大きなおおきな樹を植えたい」と考えました。建物の構造体をそのままデザインに活かし、どっしりと太いV型の柱で構成する足もとは「樹の幹」、その上に載るタワーボディの外殻を包むトップブレースは「豊かに繁る枝と葉」と見立て、飽きのこない「おおらかな建築」に育ててきました。池袋のシンボルとなりウェルカムゲートとなるこの建物が、永きに亘ってみなさまに愛され親しまれるものになっていくことを信じています。

2. ダイヤゲート池袋について

③フロア構成

～約2,100㎡の無形無柱空間が実現する

フレキシビリティ～

地下は駐車場、1・2階はエントランスおよびオフィスユーザー需要に応える商業店舗が3店舗。中間免震層より上の4～18階がオフィスフロアです。

※14～18階に西武グループ3社（西武ホールディングス、プリンスホテル、西武プロパティーズ）が入居

ブレースによる外殻構造により実現した、池袋エリア最大の基準階貸室面積約2,100㎡・奥行き18mの無柱空間と、2,800mmの天井高。フロアの分割などにもフレキシブルな対応が可能で、開放的でハイグレードな空間を提供します。

<環境に配慮したスペック>

・遮熱LOW-Eペアガラス

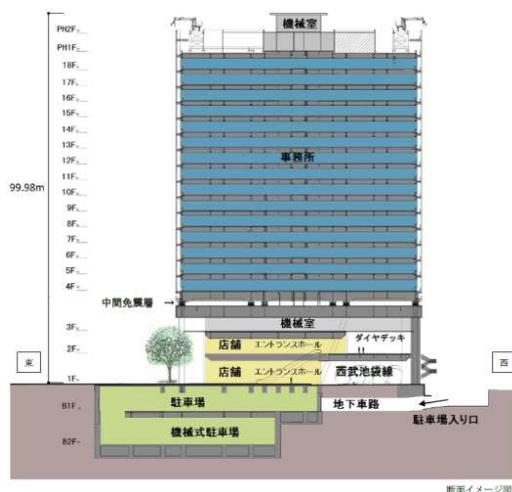
LOW-Eガラスにより日射を和らげ、遮熱性能の高いペアガラスの効果で外気の影響を受けにくい遮熱ガラスを採用。冷暖房効果を高めます。

・LED照明平均照度700lx

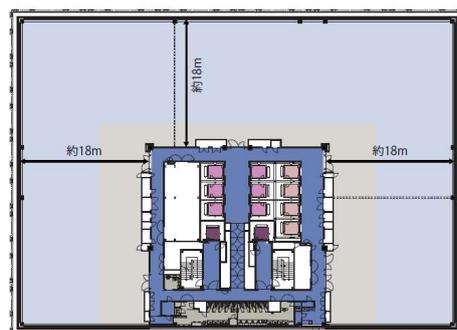
机上面の水平面平均照度700lxを確保し、蛍光灯と比較して約50%使用エネルギーを削減します。

・WEBによる空調制御

各テナント内のVAV発停（可変風量システム）・温度設定はテナント用WEBサーバーから行えます。



断面イメージ図



OFFICE PLAN 一般部 500kg/m² ヘビーデューティーゾーン 1,000kg/m²

基準階平面図

コラム

西武鉄道池袋旧本社ビル

1958（昭和33）年4月に、池袋に新築された西武鉄道池袋旧本社ビルは、その後複数回増築を行い、1971（昭和46）年に最終竣工を迎えた。1986（昭和61）年まで、西武鉄道及び関連会社で本社として使用。その後、2000（平成12）年4月より2013（平成25）年12月まで、オフィスビルとして西武グループ各社ほか第三者へ賃貸利用をしていた。さらに時を遡ると、西武鉄道の前身である武蔵野鉄道の本社が起点である池袋に置かれていた。

<建物概要（最終竣工時）>

構造：鉄筋コンクリート造、地下2階 地上8階建

延床面積：約18,500㎡



2. ダイヤゲート池袋について

(2) 防災／BCP

～先進のオフィスビルに求められる安全性～

<地震の揺れを抑える、中間免震構造>

大地震発生時において建物の機能維持をはかる中間免震構造を採用し、「安心・安全」を確保します。中間免震構造は、地震エネルギーを効率よく吸収し、構造体の損傷を抑えます。また、建物外周のブレース架構は地震時などの水平力を負担する機能面の他にも、無柱のオフィスフロアと美しい外観を実現します。

<信頼性の高い電力供給>

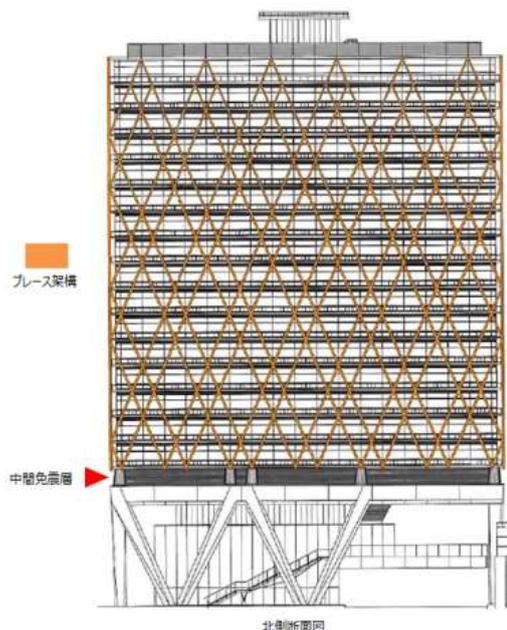
72時間非常用発電機と入居者用の非常用電源スペースを確保してBCPをサポートします。

<上下水のバックアップ>

災害時に備え、3日分の使用水量を常時確保し、排水も建物内に貯留できる計画としています。また、屋外には帰宅困難者用にマンホールトイレを設置します。

<防災備蓄倉庫>

ビル内に防災備蓄倉庫を設けるほか、エントランスホールやビル内デッキなどを帰宅困難者の一時滞在スペースなどとして開放します。



※イメージ写真

積層ゴムアイソレーター(写真左)とU型鋼製ダンパー(写真右)を免震層に配備することで、相互の性能が免震効果を発揮。



1F エントランスホール



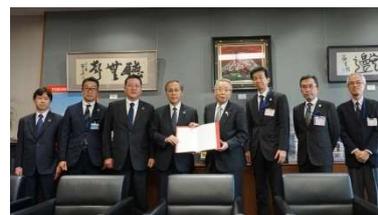
2Fダイヤデッキ

豊島区と「帰宅困難者対策の連携協力に関する協定」を締結

2019年1月28日に豊島区と災害時の一時滞在施設および一時待機場所として「ダイヤゲート池袋」のスペースを提供することなど、本ビルを通じて連携協力する「帰宅困難者対策の連携協力に関する協定」を締結しました。本協定は、池袋エリアの防災機能の向上と地域全体の安心を高める一助として取り組むものです。<協定締結者：西武鉄道>

【協力内容の主な項目】

- 帰宅困難者の一時滞在施設や一時待機場所の提供・運営
- 水や食料、毛布などの物資の提供
- 活動拠点用機材や物資を備蓄するための倉庫や場所などの提供 など



2. ダイヤゲート池袋について

(3) 建築プロジェクト/建物建設遷移

＜建築プロジェクト＞ 施工：大林・西武 建設工事共同企業体

旧本社ビルの敷地に加え、線路を挟んだ西側の用地も活用することで、敷地面積を従来の1.7倍へ大幅拡大しています。特徴的な構造計画、鉄道やガード脇での建物づくり、線路下で同時進行するトンネル工事、搬入 動線が乏しいなど、さまざまな課題を施工計画や工法を入念に検討・計画し工事を進めました。

「資材搬入」

「逆打ち工法※」を採用し、1階床を先に完成させることで、前面道路と一体となった動線や資材置き場を確保。

※逆打ち工法：始めに1階の床をつくり、その後に地下を構築していく工法

「線路上空工事」

1日にわずか2時間半作業という制約の中、毎日入念な計画・準備・作業を積み重ね、線路上空の2階人工地盤を約半年かけて完成。



工事の様子

＜建物建設遷移＞



2016年3月

2016年10月

2017年1月

2017年4月

2017年7月



2017年8月

2017年9月

2017年10月

2017年11月

2017年12月



2018年1月

2018年2月

2018年3月

2018年4月

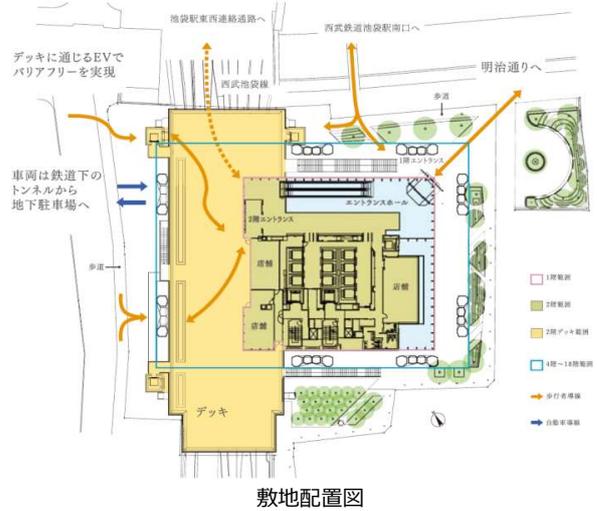
2019年2月

2. ダイヤゲート池袋について

(4) 歩行者ネットワークの向上

～歩行者も車も、スムーズなアプローチ～

- ・ビル内デッキによって、敷地周辺の東西・南北のバリアフリー化がなされた動線を新設します。
- ・車両は西武鉄道池袋線の西側出入口から線路下を地下車路で横断し、地下駐車場にアクセスすることで、歩行者との動線分離をはかります。
- ・将来、豊島区が構想中の池袋駅東西連絡通路（東西デッキ）がビルと接続された際には、南池袋方面への歩行者ネットワークが強化されます。



池袋駅東西連絡通路(東西デッキ)整備基本構想 平成27年3月豊島区

出典：豊島区ホームページ

池袋駅の構造や現状を踏まえ、駅構内や駅周辺の歩行者の混雑を解消するとともに、災害発生時の一時待機場所や避難経路等を確保するため、池袋駅線路上空に南デッキと北デッキの二つのデッキを整備します。この二つのデッキをもって東西デッキと位置づけます。

整備にあたっては、池袋駅地下通路における混雑緩和など、駅全体の利用者動線の円滑化をはかるため、駅の地下と上空に、わかりやすく、利用しやすいルートを設定します。また、デッキから駅周辺へのアクセスを考慮するとともに、二つのデッキ相互間のネットワークを検討し、池袋駅東西の回遊性を確保します。



コラム

池袋の東西をつなぐ“ビックリガード”

池袋の街では馴染みが深い“ビックリガード”。名称の由来は諸説あり。正式名称は「都道池袋架道橋」として、1960（昭和35）年3月に西武鉄道側のガードが竣工し、当時から街の東西アクセスの重要な機能を果たしてきた。

現在、ビックリガード下を歩行者が通過するには専用階段を利用する必要があるが、同ガードに隣接し跨ぐようにして建つダイヤゲート池袋のビル内デッキにEVを整備することで、バリアフリー化される。



ビックリガードの由来

池袋の通称ビックリガードは、むかし山の手線の下を通るガードを指したもので、西武池袋線は道路と平面交差の路切でした。

当時のガードは天井も低く、頭上を通る列車の轟音と振動で、人も荷馬車の馬もビックリ仰天、こどもは、耳をふさいで逃げ出す始末で、これがビックリガードの名のおこりとなったのです。

また、大雨が降ればガード下は水が溜まり、急勾配の狭い入り口は運転手泣かせ、対向車がくれば、両者の息地くらべになったとも言われます。

現在のようになって全面開通したのは1983年10月で、ちなみに正式名称は「都道池袋架道橋」だそうです。

ここから西北約300メートルの元池袋史跡公園付近には、むかし「丸池」があり、池から溢れでた清流はこの付近で線路を横切り弦巻川となって雑司が谷の田畑を潤し、吾羽通りを南進、神田川へ落ちていました。丸池を含むこの辺もむかしは雑司が谷村に属していました。

この路線擁壁に描かれた「雑司が谷はかるた」は、おもに「豊島区史」の中の地誌随筆から選んで作成したもので、郷土史入門の手がかりに、また、落書き防止対策として、街の美化に役立つことを願ってやみません。

2006年5月吉日

プロジェクト推進・・・池袋第一町会
雑司が谷はかるた原案・・・矢野勝昭
監修制作・・・さいとうはな美術学院

3. 再開発が進む池袋

～街が変わる、街を変える～

国家戦略特別区域のひとつである、「アジアヘッドクォーター特区」の指定を受けた池袋駅周辺地域。これからの国の重点エリアとして様々な再開発計画が各所で進行しています。庁舎跡地再開発をはじめ、アート・カルチャー・ハブの核となる4つの公園整備や新たな移動システム（LRT・バス移動システム）導入計画など地域の個性を際立たせるまちづくりの展開が行われています。



コラム

西武鉄道「100周年事業」池袋駅リニューアル〈2016年3月完了〉

西武鉄道池袋駅では2012年5月に西武鉄道の前身である武蔵野鉄道の設立から100周年を迎えたことを契機に、より快適にご利用いただけるよう、全面的なリニューアル工事を実施。

希望と感動があふれる駅として、“太陽をモチーフに、自然と都市の二面性”をコンセプトに掲げ、内外装を一新。安全性・利便性・快適性などを大きく向上させ魅力的な駅に生まれ変わった。

〈参考〉西武鉄道池袋駅乗降人員数 489,006人/日（2017年度）、484,951人/日（2016年度）



池袋駅のゲート性を表現



太陽をモチーフにした、1階改札外コンコース



駅ナカ商業施設「エミオ池袋」

4. 西武グループについて

(1) 事業紹介

西武グループは、グループビジョンのスローガン「でかける人を、ほほえむ人へ。」のもとお客さまの生活を応援する企業として、グループ企業間におけるシナジーを最大限追求しながら「都市交通・沿線事業」と「ホテル・レジャー事業」「不動産事業」「建設事業」「ハワイ事業」および「その他」の6つのセグメントにより各事業を推進しています。

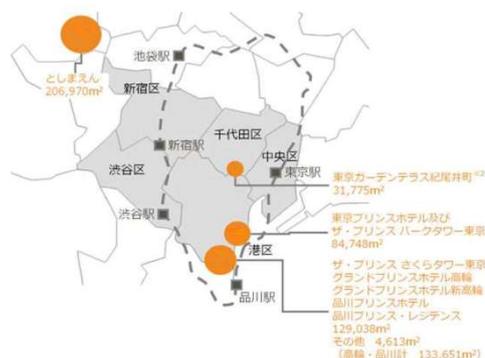


<不動産事業（役割＝「企業価値向上の鍵」）> ～グループ保有不動産の有効活用により

潜在的な収益力を顕在化～

西武グループは、首都圏を中心に全国に保有する豊富な資産を活用し、付加価値の高い空間を提供しています。東京23区内に持つ土地面積は約47万㎡にもおよび、山手線の新駅開業計画やリニア中央新幹線開業などによる再開発が見込まれる高輪・品川エリアなどで保有する資産の有効活用を進めています。

東京23区における主な保有土地 ※1



※1 2018年3月31日時点
東京23区における土地面積上位エリアをA～Dとして掲載
※2 開発区域及びその周辺区域を一括管理しているため、面積はそれらの合計を表示

4. 西武グループについて

(2) グループビジョン

グループビジョンは、西武グループの経営理念を表したものであると同時に、私たちが取り組むすべての活動の出発点、目指すべきゴールを示すものとして、2006年3月27日に定められました。それは、私たちの基本的な取り組みである安全性や快適性の実現と、そうした取り組みを通じて感動の提供を目指す企業グループであろうとする姿勢を表したものでもあります。以降、西武グループは再生から成長へと、着実に歩みを進めています。そうした中、この3月27日を「ほほえみAnniversary」として2018年に制定しました。「ほほえみAnniversary」は、過去の教訓を活かして風化させることなく、グループビジョンの絶え間ない浸透・定着を象徴する特別な日としています。



グループ理念

私たち西武グループは地域・社会の発展、環境の保全に貢献し、安全で快適なサービスを提供します。また、お客さまの新たな感動の創造に誇りと責任を持って挑戦します。

グループ宣言

私たちは、「お客さまの行動と感動を創りだす」サービスのプロフェッショナルをめざします。

1. 誠実であること

常に、「安全」を基本にすべての事業・サービスを推進します。

常に、オープンで、フェアな心を持って行動します。

常に、お客さまの声、地域を大切にします。

2. 共に歩むこと

常に、自然環境、地球環境への配慮を忘れません。

常に、地域社会の一員として行動します。

常に、グループ内外と積極的に連携を図ります。

3. 挑戦すること

常に、グローバルな視点を持って行動します。

常に、時代を先取りする新しいサービスを提案します。

常に、お客さまの生活に新しい感動を提供します。



4. 西武グループについて

(3) 会社概要

株式会社 西武ホールディングス

西武グループの持株会社として2006年に設立し、グループの中核事業を担う「西武鉄道」及び「プリンスホテル」など78社の事業会社を統括するグループガバナンス体制を構築、運用しています。「グループ ビジョン」に基づき、皆さまの「安全で快適な暮らし」に貢献できる企業グループを目指します。また、健全なガバナンス体制のもと、グループ各社がそれぞれ事業価値を高めることにより、グループ全体の価値の極大化に最大限努力します。

本社所在地 〒171-0022 東京都豊島区南池袋一丁目16番15号 ダイアゲート池袋18階・17階
※2019年4月 8日（月）より業務開始
設立 2006年2月3日 資本金 50,000,000,000円
代表者 代表取締役社長 後藤 高志(ごとう たかし)

西武鉄道 株式会社

西武グループの成長の安定的基盤としてその中核を担う西武鉄道は、東京・埼玉エリアにおいて通勤・通学・観光など、お客さまの生活に欠かせない公共交通機関として事業を展開しています。その社会的使命である「安全・安心」を基本に、新宿線連続立体交差事業、ホームドアの設置を進めるほか、新型車両の導入や、所沢駅東口駅ビル計画などによる利便性の向上や快適なサービスの提供に努めています。

本社所在地 〒359-0037 埼玉県所沢市くすのき台一丁目11番地の1
設立 1912年5月7日
資本金 21,665,232,000円
代表者 代表取締役社長 若林 久(わかばやし ひさし)

株式会社 プリンスホテル

都市型ホテルとリゾートホテル、ゴルフ場、スキー場などを併せもち、ホテル・レジャー事業業界では最大規模の会社としての社会に対する責任の大きさを自覚すると同時に、社会から信頼される企業を目指しております。お客さまのニーズに合わせた施設と、快適なサービスで国内外のお客さまをお迎えいたします。

本社所在地 〒171-0022 東京都豊島区南池袋一丁目16番15号 ダイアゲート池袋15階・14階
※2019年4月 15日（月）より業務開始
設立 1956年6月4日 資本金 3,600,000,000円
代表者 代表取締役社長 小山 正彦(こやま まさひこ)

株式会社 西武プロパティーズ

2009年7月、商業施設事業・不動産事業に実績をもつ西武商事と西武不動産の経営統合により誕生した西武グループの不動産事業を担う企業です。地域社会への貢献を図るとともに、常にお客さまの視点に立ち、そこに住まう方の安心や、ニーズを捉えた感動とほほえみあふれる街づくりにつとめています。

本社所在地 〒171-0022 東京都豊島区南池袋一丁目16番15号 ダイアゲート池袋14階
※2019年4月 15日（月）より業務開始
設立 1974年8月31日 資本金 4,050,000,000円
代表者 代表取締役社長 上野 彰久(うわの あきひさ)

※2019年3月時点